

平成23年度 新潟県小学校教育研究会特別活動部
各郡市特別活動部会の活動状況報告

郡市名 上越市

部長名 上野 宏 (中保倉小学校)

1 特別活動の動向

(1) 郡市小学校教育研究会としての動向 (部会、学習会、研修会など)

上越市では、小中学校の県費負担教職員で上越市学校教育研究会を組織し、その部会の一つとして特別活動部が位置付けている。会員は、年間の研究計画のもとに実践を積み重ね、秋の一斉研修で互いの取組を紹介し合っている。今年度は、浦川原中学校で行われた特別活動研究発表会 (新潟県中学校教育研究会指定) への参加を通して研修を深めた。以下、概要を述べる。

①研究課題「自己を見つめ、より望ましい人間関係を求める児童生徒の育成」

②研究の内容・進め方

(ア)部会研究課題、または学校の計画に沿って、全員が実践を重ねる。

(イ)新潟県中学校教育研究会指定研究発表会に参加し、研修を深める。

③浦川原中学校での研究発表会について

(ア)期日 平成23年11月18日(金)

(イ)研究主題 「自己を見つめ、より望ましい人間関係を求める生徒の育成」
～「自尊感情」を高める活動を通して～

(ウ)公開授業

1年 「集団としての成長をめざして」

～音楽発表会の振り返り活動を通して～ 塚本 匡 教諭

2年 「2Aのこれからの姿について考えよう」

～音楽発表会の成長から～ 永井 愛美 教諭

3年 「後輩に伝統を引き継ぐために」

～音楽発表会での活躍の振り返りを通して～ 野田 晴高 教諭

(エ)分科会の概要

学年ごとの分科会では、授業について質疑応答を行い、以下のような意見が出された。また、小グループ討議では、持参した実践レポートに基づいて意見交換を行った。

- ・映像使用によりイメージ化が図られ、よい雰囲気の中で授業が展開していた。
- ・振り返りカードは授業やさまざまな活動後に書くように促しているが、その生かし方が課題である。
- ・自尊感情には、「できた」「わかった」という達成動機と「つながった」という親和動機がある。人間関係づくりのみでなく、学級の課題解決の過程の話し合いに位置付くことで、自尊感情は高まっていく。
- ・話し合いの中のファシリテーショングラフィックスが有効であった。一枚の紙にそれぞれの意見を書き表すことによって自尊心が高まる。生徒が育っているからこそこの手法が有効であった。

(2) 郡市内の研究指定校や先進的な実践を行っている学校の紹介

上越市立浦川原中学校 (22年度, 23年度県中学校教育研究会指定校)

2 特別活動の課題 (運営上の課題、問題点、悩み、工夫点など)

年1回の研修ということから深まりは期待できない。学校や個人が取組に頼るところが大きい。今年度のように指定校での研究発表会があると、授業を通して学ぶことができるようになり研修が充実する。これまでは、レポート研修が中心であったが、今後の検討課題としたい。